

耳飾りが浮き彫りにされた  
美しい石棺

割竹形石棺とは、竹を縦に2つに割ったような形をした身と蓋とに分かれる石棺で、合わせると円筒形になります。

石棺が出土したのは生野町の磨白山古墳。有岡古墳群の中の1基であり、大麻山から平野に突き出した磨白山の尾根上に立地する前方後円墳で、古墳時代前期末頃に築造されたと考えられています。

磨白山古墳から出土した割竹形石棺の発見は古く、江戸時代の記録に土取りの最中に見つかったことが記されています。このとき石棺の中には貴重品の朱に包まれた骸骨があり、村人は名のある人物の墓だろうと考えて再び埋め戻しましたが、その後盗掘を受けて朱や鉄剣・玉などが持ち去られてしまい、村人は災いを恐れて祠を建ててまつたとのことです。

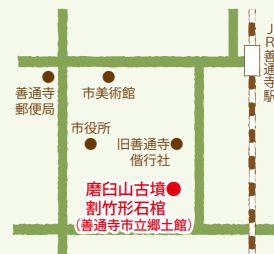
この石棺は長さが約2m、幅90cm程の大きな石材をくり抜いて造られており、石材は高松市国分寺町にある鷲ノ山産出の角閃安山岩が使用されています。同じ石材を用いた石棺は、県内の有力な首長の古墳や、遠くは

海を越え大阪府柏原市の古墳まで運ばれており、被葬者を安置する重要な道具となる石棺に同じ石材を利用した地域は、势力的に深い繋がりがあったのかもしれませんが。

石棺の中を見ると被葬者の頭部の位置に石枕が造り出され、両耳の位置に勾玉の耳飾りが浮き彫りにされています。非常に精緻な加工が施されており、ほかにも棺内や身と蓋の合わせ面なども丁寧な造りとなっています。この石棺は、造りの優美さに古墳時代の加工技術の高さをうかがい知ることができるため、国の重要文化財に指定されました。現在は善通寺市立郷土館のあるZENキューブ1階に展示されています。



ZENキューブの1階ロビーに、割竹型石棺保管・展示室があります。



- 文京町2-1-4
- 旧善通寺偕行社から徒歩約1分
- 見学時間 / 10:00~16:00
- 休館日 / 月曜・年末年始
- 入館料 / 無料
- 問い合わせ / ☎ 0877-63-6328



綺麗な石枕と耳飾りの浮彫り